

表 30年産春作ジャガイモ疫病の初発時期（予測日）

平成30年4月13日現在

	3月1日出芽（50%）	3月15日出芽（50%）
	上段：初発時期 下段：効率的防除のための防除開始時期	上段：初発時期 下段：効率的防除のための防除開始時期
長 崎	3/31~4/10 (3/26~28)	4/18~28 (4/13~15)
大 瀬 戸	4/2~12 (3/28~30)	4/18~28 (4/13~15)
飯 盛	4/16~26 (4/11~13)	4/20~30 (4/15~17)
大 村	4/4~14 (3/30~4/1)	4/20~30 (4/15~17)
島 原	4/15~25 (4/10~12)	4/20~30 (4/15~17)
口 之 津	4/2~12 (3/28~30)	4/19~29 (4/14~16)
平 戸	3/31~4/10 (3/26~28)	4/18~28 (4/13~15)
福 江	3/28~4/7 (3/23~25)	4/18~28 (4/13~15)
愛 野	3/31~4/10 (3/26~28)	4/20~30 (4/15~17)

注1) FLABS長崎モデルにアメダス観測値を入力した結果

注2) 期日の上段は初発時期を示し、下段（ ）内は効率的防除を行うための防除開始時期を示す。

注3) 表中の「-」は4月1日までのアメダス観測値では初発時期を予測するための要件を満たしていないことを示す。ただし、出芽の早い圃場ほど発病の危険が高いため注意する。

注4) 飯盛は、農林技術開発センター（諫早市貝津）および川の防災情報（国土交通省 江の浦川）の観測値による。

注5) 愛野は、農林技術開発センター馬鈴薯研究室（雲仙市愛野町）の観測値による。

3. 防除対策について

(1) 本病は発病すると急激に進展し、蔓延するので予防防除に重点をおく。

(2) 1回目の薬剤散布は、ばれいしょの茎葉伸長期にあたるので表1（ ）内の時期を目安にして、浸透移行性の高いA剤を散布する。その後B剤（A剤散布14日後）、C剤（B剤散布14日後）を散布すると効率的、効果的な防除ができる（図、表2）。

なお、予測による1回目散布時期が遅くなり、散布間隔が短くなる場合は、2回目（B剤）の散布を省略し、C剤を散布する。

(3) 薬剤散布は下葉に薬液が十分付着するよう十分量を散布する。